

7 地方勤務（地方自治体、都道府県労働局）

地方自治体

社会保障政策や労働政策は、実際に制度を運用し、サービスを提供している地方自治体との連携なくしては円滑には行うことができません。数理職員も地方自治体に出向し、実際に業務に携わることで、厚生労働行政が地方行政に与える影響の大きさを体感できます。国の政策が現場でどのように取り組まれているのかを間近で見聞きするとともに、地域のニーズを把握し、地域に根ざした課題の解決にじっくりと取り組んでいくなど、国における政策立案とひと味違うアプローチが出来る点が、地方自治体で働く醍醐味です。

高齢社会も地域のつながりがあれば安心

大分県臼杵市理事 兼
協働まちづくり推進局長 西岡 隆（平成7年入省）

大分県臼杵市は大分県南部、豊後水道に面した自然豊かなところにあります。人口4万人、高齢化率36%で、すでに人口減少と高齢化に直面している町です。私は、市の理事（市長、副市長の次の立場）として、厚生労働行政はもちろんとして、市政全体を見渡し、人口減少・少子高齢化に立ち向かうべく、様々な施策に関わっています。

もちろん、施策の推進には計画の策定なども重要で、その際には、市が保有する様々なデータを用いて、自分が得意な数理的手法を活用して、わかりやすいビジョンを描き、それを具体的な施策に展開していきます。ここでは、医療や介護など高齢者が安心して暮らしていくための取組みから、子育て環境の充実、地域のコミュニティの再構築、都市部からの移住定住の受入、観光資源の開発や地元産品の6次産業化などやるべきことはいくらでもあります。

でも、これらの事業に取り組んでいく中でいつもありがたいと感じるのが、地域を支える多くの市民が協力してくれることです。自治体の仕事には、国レベルでは中々体験できない行政と市民の信頼関係があります。そして、地域の皆さんは、お互いがつながりあっていて、何かのイベントをするときでも、いつも予想以上の人が集まってくれます。自ら地域の輪の中に入り、イベントをやりとげた後の爽快感は自治体の仕事ならではの思いです。

高齢化に伴い、高齢者や身体の不具合が悪い人も増え、地域で暮らしていく中では様々な不便を抱えた人も多くなっていますが、それでも、臼杵市のような地域は、人と人がつながっていて、そこに行政が進める医療や介護・福祉といったサービスを届けることで、市民は、安心して暮らしていくことができます。

身近にいる市民一人ひとりが、いつまでも元気で安心して暮らしてほしいと感じながら仕事をしています。

家族も一緒に来ており、海や山の自然に囲まれ、美味しい食にも恵まれていることも、地方の大きな魅力だと感じます。



地域の「食」のイベントであいさつ

都道府県労働局

都道府県労働局は、労働行政の第一線機関である労働基準監督署、公共職業安定所（ハローワーク）を取りまとめ、管内における労働行政の企画等の業務を行っています。専門的な職務に限らず幅広いキャリアパス形成の一環として、数理職員は、労働局の総務部、労働基準部、職業安定部などにも配置されます。

地方の魅力発信！

滋賀労働局職業安定部長 角井 伸一（平成5年入省）

滋賀って琵琶湖のある県でしょ？これが滋賀労働局に赴任が決まった2年前の感想でした。厚生労働省の仕事は、国民の生活に直接関わる事が多く、そのため、国全体の動きをしっかりと把握して分析し、政策につなげていくことが求められます。しかし、その政策の実行部隊は自治体や労働局など地方にあることが多いのです。

長く東京で仕事をしていると、各地方の特有の動きなどをあまり考えずに、地方のデータを積み上げた全国データを重視しがちになってしまいます。このことに、滋賀に赴任して初めて気づかされ、地方のことをいかに知らなかったのか痛感しました。

滋賀労働局での仕事は、ハローワークなど雇用に関わる機関に対して、政策の指示や管理をしています。私自身、県知事を始め、自治体や関係する機関、企業の方と会う機会が多くあり、地元の情報を直に把握することができます。会ってお話をするたびに滋賀についての様々な情報が得られ、地元の人にとっては当たり前のことでも、私にとっては大発見ということが多いですね。

こうして得られた情報を発信することも仕事のひとつです。広報について、どうすれば関心を持っていただけるか、一番効果的な方法は何か、いつも頭を抱えています。

数理職には地方自治体や労働局など地方で勤務する機会があります。仕事でもプライベートでも、地方のことを存分に勉強できるすばらしい機会です。こういう機会があることも厚生労働省で働く大きな魅力です！



かるたの聖地にて